平成30年度 社会を明るくする運動 最優秀・優秀作品の紹介

７月は『社会を明るくする運動』強調月間でした。この運動の一環として、児童・生徒の皆さんから作文を募集したところ、多くの作品が寄せられました。

厳正な審査を行い、受賞作品が決定しましたので、最優秀・優秀賞を受賞した作品を紹介します。

（最優秀賞のみ全文掲載）

最優秀賞　小学校の部

「あいさつの力で地域を元気に」　綾木小学校　６年　野原　咲多郎

僕たちの町美東では、いろいろな場所に「あいさつの美東、みとうの日」という旗が立っています。この「みとうの日」というのは、美東町内の小・中学校で、毎月十日を「みとうの日」としてあいさつ運動を行っている活動のことです。ぼく達が登校するときに、先生や、地域の方々が外に出て、いっしょにあいさつをしています。そのことによって美東町全体が明るく元気なあいさつが聞こえる町をつくっていこうという思いがあります。

低学年の時は、こういった活動がなく、あいさつが聞こえることもあまりありませんでした。でも高学年になり、この活動が始まると、地域の方々や、先生、友達とのあいさつも増え、それを機に会話も増えていきました。

やはりあいさつをすると、会話も増え、友達同士でも仲良くなれるんだなと思いました。

ぼくは他にも、あいさつによる効果があるのではないかと思い調べてみました。調べてみると、大きな声であいさつをするとおたがい気持ちがいい、笑顔になる機会が増える、あいさつをした相手の、表情や、声で、相手の気持が分かるなどがありました。その中でぼくが特に注目したのが、あいさつをした相手の表情や声で気持ちが分かるというものです。ぼくも、気げんが悪いときや、体調が悪いときには、あいさつができなかったときがありました。そんなときは、相手にいやな気持ちをあたえたかもしれません。なので、逆に友達が元気のないあいさつをしていたら、「どうしたの」などと声をかけてあげたいです。

最近は暗いニュースが多いです。殺人事件や自殺などを多く聞きます。特にいじめによる自殺は胸を痛めました。　そんな時に自分達が力になれることは「あいさつ」があると思います。あいさつをすることによって明るい気持ちになったり、笑顔になれたりして、少しでも気持ちが軽くなったり、コミュニケーションがとれたりするかもしれません。なにげない「あいさつ」だけど、大きな力を持っているのではないかと思います。

今ぼく達が行っている「みとうの日」の活動をこれからも積極的に行って、美東町全体を住みやすい、明るい町にしていきたいです。美東町から、他の地域や自分の下の世代にも引き継いでいきたいです。あいさつから日本の平和、世界の平和につながることを願っています。

優秀賞

小学校の部

淳美小学校４年
兼重　周平
『ぼくたちのけいさつかん』

秋芳桂花小学校５年
植木　恋士
『みんなを大切に！』

中学校の部

秋芳中学校３年
石田　心海
『今の私にできること』

於福中学校１年
河内　斗真
『社会を明るくするために』

最優秀賞　中学校の部

「相手をよく見て、よく知って」　豊田前中学校　3年　大田　乃依

私の住んでいる地域は、高齢者が多く、子供がとても少ないです。自然が豊かで、建物も多いとは言えない田舎です。独居老人の方もいらっしゃり、人目につかない場所もあるので、どちらかというと犯罪などが起こりやすい地域なのではないかと私は思います。ですが、私は今まで犯罪や非行があったということを聞いたことはありません。そのことについて、私はただ平和だなというくらいにしか考えていませんでした。ですが、この作文を書くにあたって考えてみると、私の住む地域の人達は皆、あいさつなどでコミュニケーションをとっているからなのではないかと思いました。なぜなら、こういったコミュニケーションをとることで、相手が元気かどうかということが分かりますし、自分は見守られているのだなと安心することもできます。また、いつも居てあいさつをしてくれる人を急に見なくなったら、心配して何か行動をとることができるかもしれません。そうやって、町民一人一人の気遣いが犯罪や非行を防止しているのだと思います。

あいさつ以外のコミュニケーションとして家族や友人に対する声かけも大切だと思います。例えば、私には元気な妹がいます。いつも元気の良い妹が黙って落ちこんでいるようだったら、「どうした？」と声をかけるようにしています。私は犯罪などを犯す人は、一人で色々なことをためこんで、誰にも相談できなかったのではないかと思っています。だから、そうやって声をかけて少しでも心を軽くして一人でためこまないようにしてほしいと思っています。

もしも、家族や地域の誰かが罪を侵してしまったら、犯す前と同じように接することができるでしょうか。私は難しいだろうと思っています。もし地域の誰かが罪を犯したらその人が罪をつぐなって帰ってきても、さけたり、会わないようにしてしまいそうだと思います。また、罪を犯したのが家族だったら、裏切られたと思ってしまうかもしれませんし、罪をつぐなったということを受け入れても、一度壊れてしまったら、完全に元のように戻るのは時間がかかるでしょう。ですが、このような考えではいけません。罪を犯すのはもちろん絶対にやってはいけませんが、それをしっかり、つぐなって帰ってきて、周りがそんな反応だったら、また一人でため込んでしまいます。自業自得と言われればそうかもしれませんが、そこからまた犯罪が起こってしまうかもしれません。そんなことがないように、周りの人は更生したということを受け入れてその人を見守っていかないといけないと思います。また、私自身は、この人は犯罪を犯した人だということなどにとらわれず、更生して、変わった姿を見て、また新しくその人のことを知っていきたいと思います。

私の住む町には、美祢社会復帰促進センターがあります。そこでは、犯罪を犯した人が更生するために努力しています。ですが、私たち一般の人は罪を犯した人がどのようにして更生していくのかは知りません。だから、一言更生したと言われても何がどう変わったのかや、どう更生したのかは分かりません。そこで私は、更生して社会に出るまでどんなことをするのかが分かれば、もっと受け入れやすくなるのではないかと考えました。もちろん、更生しようと思う気持ちがある上でですが、例えばどんなことをしているのかを知れたら、社会復帰に関心を持つことができます。また、ただ罪を犯したけど更生した人というイメージよりも、罪を犯したけどこういったことをして更生した人というイメージのほうが情報が多く具体的なので安心でき、接しやすくなると思います。他人だからではなく、もう二度とその人が罪を犯さないように地域全体で見守っていければいいなと思います。

犯罪や非行のない地域社会づくりをするためには、日々のなにげない会話やあいさつなどのコミュニケーションと、相手を思いやる気持ちが大切です。また、地域で手をとり合って、悩んでいる人によりそえるようなやさしい環境をつくり、帰る場所をつくる。そのためにできることは人それぞれで、たくさんあります。まずはそれを知ることから初めて、考えて、考えを共有して、広げていきたいと思います。

問い合わせ先　地域福祉課〔☎0837(52)5227〕